

国語

解答と解説

1

問三	問一
③	わ
工	く
⑧	わ
ア	く
問四	す
工	問二
問五	②
イ	工
問六	⑤
ア	イ
問七	⑨
ウ	ア

(完答)

問八

A
天
地
印
B
図
書
館
の
も
の

(完答)

31

問九	イ	32
問十		
	ウ	33
問十一		
	入	34
	っ	
	て	
	く	
	る	

34

2

問一	意	35
	味	
	を	
	理	
	解	36
問二	ウ	
問三	読	37
	解	
	力	38
問四	工	
問五	イ	39

39

問六			
た	く	は	イ
な	り	ゲ	ン
い	読	ー	タ
人	書	ム	ー
が	に	に	ネ
増	浸	時	ツ
え	っ	間	ト
て	て	を	や
い	楽	取	S
る	し	ら	N
か	む	れ	S
ら	時	て	、
。	間	、	あ
	を	じ	る
	持	っ	い

40

41

42

43

		5		4		3			
⑥	保育	①	準備	①	イ	④	主	①	主
⑦	製粉	②	謝罪	②	エ	④	ウ	①	エ
⑧	快	③	減税	③	ア	⑤	述	②	述
⑨	結	④	条件	④	イ	⑤	主	③	主
⑩	包帯	⑤	演技	⑤	ウ	⑤	エ	③	ア
64		59		54		52		49	
65		60		55		53		50	
66		61		56					
67		62		57					
68		63		58					

【解説】

① 池田ゆみる『坂の上の図書館』（さ・え・ら書房）から出題しました。「わたし」は、自分と同じく自立支援センター「あけぼの住宅」で暮らしている竜司くんが図書館の本を盗んだのではないか、という疑念を抱きます。そして、自分は竜司くんにどう働きかければいいかと悩み、自分なりのやり方で解決していきます。その間で揺れ動く「わたし」の気持ちを、ていねいに読み取りましょう。

問一 B1 具体化 関係づけ

竜司くんが『ホビーコレクション』という雑誌をどのように扱っているか書かれている部分を読みましょう。——線④の直前に「首をつっこむようにして…読んでいる」とあり、四文後に「今、雑誌にそそがれている目は、きつとキラキラしている」とあります。ここから、竜司くんが夢中になっていることがわかります。それを踏まえて読み進めると、⑤の二行前に「わたしだって、わくわくするような本をさがしたい!」という一文があることに気づきます。※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問二 B1 関係づけ 比較

② 「会わない」の直前に「あけぼの住宅の同じ階に住んでいるのに」とあります。ですから、ここにはエ「めったに」が入ります。「めったに」は「くない」とセットで使う言葉です。⑤、「そういう日もある」とありますから、ここにはイ「たまには」が入ります。⑨ 図書館に行くことに

した」とあります。「わたし」は毎日図書館に通うのを楽しみにしているのですから、ここにはア「いつものように」が入ります。

問三 A2 知識 比較

「こぼ（す）」は、中のものをひっくりかえして外にだす、という意味のほかに、「不平や愚痴をいう」という意味があります。「目をこら（す）」は「じつと見つめる」という意味です。

問四 B1 理由 比較

——線④の次の段落で、目を輝かせて雑誌に夢中になっている竜司くんの姿が描かれています。そして、その姿を見て、「わたし」は「なんだか、うれしかった。わたしだって、わくわくするような本をさがしたい!」と興奮しています。ですから、——線④の「わたし」の気持ちはプラスの気持ちです。学校にもあまり行かず、家庭環境も不安定でいつもさびしい目をしている竜司くんをわくわくさせるような本がある、そのことがとてもうれしくて、気持ちが高ぶったのだと考えられますから、答えはエです。イ・ウはマイナスの気持ちです。イ「見てはいけないものを見てしまった」「うしろめた」い、ウ「本当に好きなのは本を読むこと」「見下していたことを恥ずかしく」などの部分も本文から読み取ることはできません。アはプラスの気持ちです。しかし、——線①の直後に、毎日のように図書館に通う「わたし」が「図書館で竜司くんを見かけたのは…三か月前」とありますから、竜司くんが「図書館で過ぐすのが好き」とはいえませんが、「竜司くんのこと」を…深く知りたい」という表現も本文中にはありません。

問五

B1 具体化 比較

——線⑥の直後に「柵^{さく}の方をじつと見ていた」とありますから、雑誌がなくなったことに気づいた、ということでしょう。ア丸山さんが「こつそり持ち帰った」のは竜司くんだと思っ
ているとは明記されていませんし、ウ「どこかに置きっぱなしになっている」というのは可能性として考えられることで
あって、「気がついた」ことではありません。エ「わたし」
が気にしている」ことを丸山さんが気づいているとはどこに
も書かれていません。

問六

B1 抽象化 比較

——線⑦の竜司くんは何をしているのでしょうか。直後に
「いったい何をしているのだろう。わたしは…目をこらした」
とありますので、その後に示されている竜司くんの様子を読
みます。そこには「…竜司くんが腕^{うで}を広げた。そこから何かが、
ぱつとび出した」とあります。竜司くんの腕の中からとび
出したのは猫^{ねこ}でした。ここから、竜司くんが昼休みの中庭で
一人猫をだきしめていたことがわかります。そして、「…猫が
見えなくなるまでその場に立ちつくしていた」とあります。
これは竜司くんのさびしさが読み取れる場面です。

問七

B1 理由 比較

——線⑩直後に「でも、いつものようなドキドキではなかつ
た。それは竜司くんが雑誌を読んでいたからだ」と理由が示
されています。「竜司くんが雑誌を読んでいたから」、問四で
問われたようなプラスのドキドキではなく、マイナスのドキ
ドキにおそわれた、というわけです。ですから、プラスの選

択肢のアは不適切です。マイナスのドキドキになったのは、
竜司くんの読んでいる雑誌は図書館のものではないかという
疑いがよりふかまってしまったからでしょう。ですから答え
はウです。イ「竜司くんが雑誌を盗^{ぬす}んだ」と『わたし』が思っ
ていることに、彼自身気づいている」、エ「証拠^{しょうこ}を、はつきり
と見つけてしまった」の部分が本文からは読み取れません。

問八

B1 理由 関係づけ

——線⑪直後に「雑誌が、図書館のものとわかったからだ」
と理由が示されています。ですから、**B**には「図書館の
もの」が入ります。そして、「わたし」があの雑誌は「図書館
のもの」だとわかったのは、それに「天地印」が押^おされてい
たからです。天地印については、——線⑪の四行後から説明
されています。これが**A**にあてはまります。
※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解と
します。

問九

B1 具体化 比較

——線⑫にある「心を決めた」の内容を聞かれています。
決心の内容を問われたときは、その人がそのあとで何をして
いるのかを読みましよう。「ウソをつくことにしたのだ」と説
明しています。「わたし」は、竜司くんが盗^{ぬす}んだ雑誌を図書館
に返さなければ、と思わせるために、その本を楽しむにして
いる人が他にもいると伝えることにしました。そこにウソで
も個人名^{こじんめい}を混ぜこむことで、竜司くんが雑誌を楽しむに待っ
ている人がいることがリアルに伝わると考えたのでしょう。
よって、「架空^{かきう}の話」という言葉があるイが正解です。ア「返^{へん}

却すべきだと：言う」のは、竜司くんを追い込むことになり
ます。★印の前の「雑誌を図書館に返すように、どんなふう
に言えばいいのか。いっしょうけんめい考えた」という部分
と矛盾します。ウ「竜司くんを安心させること」、エ「心配し
気にかけている人も近くにいと伝えること」とありますが、
安心させるためにウソをつくではありません。竜司くんが
傷つかないまま、図書館に本を返せるような道すじをつけて
あげるためにウソをつくのです。

問十

B1 具体化 比較

線③の直前直後に「火が出そうなくらい顔が熱い」、
「心臓も苦しいくらい大あばれしている」とあります。竜司く
んと離れてもなお興奮状態なのがわかります。ずっと悩み、
それでも伝えなければと必死の思いで勇気を出したからで
しょう。そのことに触れられているのはウです。ア「わたし」
は、「本を盗むような人ではないと信じている『わたし』の気
持ち」を伝えたいわけではありません。イ「もやもやした気
持ちや不安がほどけ、安心」、エ「わたし」の意図を理解し
ていなかったよう「がっかり」の部分が本文からは読み取れ
ません。

問十一

B1 具体化 関係づけ

竜司くんが『ホビーコレクション』を楽しみにしているこ
とがわかる部分を探します。好きなものに向かうときは、だ
れしもできるだけはやくそれを見たい、と思うものです。『ホ
ビーコレクション』の最新号」という言葉もヒントになります。
『ホビーコレクション』の最新号をめざして、そこにまっすぐ

に向かっていることがわかる二文を探しましょう。
※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解と
します。

2

榎本博明『指示通り』ができない人たち』（日経BP・日
本経済新聞出版）から出題しました。仕事をする中で、うま
く仕事が回らない、コミュニケーションがうまくとれない、
と感じるとき、そこには認知能力、とくに読解力の乏しさが
原因となつていることがある、ということが書かれています。
読解力がなければ、文書を正しく読めないし、自分以外の視
点からものを考えることができないからです。そのための解
決策として、読書があげられています。

問一

B1 具体化 関係づけ

線①が含まれている二段落と三段落に示されている例
は、四段落の「読解力が鍛えられている人からすれば当然の
ように理解できる文書でも、読解力の乏しい人にとっては、
まるで外国語で書かれた文章のように難解でよく意味がわか
らなかつたりする」ことについての例です。ここでの「読
んでも、十分に消化できない」は、その文章を読んでも、意
味がわからないと同意です。これらと同じ意味の表現を決め
られた字数で抜き出しましょう。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解と
します。

問二

B1 具体化 比較

——線②でいうところの「コミュニケーションのすれ違い」の例は、——線②の直後の段落に書かれています。そこには、上司がある部下に不信感をいだいているが、その部下はさぼっているわけでも適当にしているわけでもなく、認知能力が乏しいばかりに、二者の間ですれ違いがおこってしまう、とあります。問題は認知能力（読解力）の乏しさにあるのに、そこに原因があるとは思わなかったことからはじまるのですから、「真剣に話を聞かなかった」を原因とするイ、「認知能力が乏しい」が原因だとわかっているエは不適切です。アは「コミュニケーションのすれ違い」とは関係がありません。

問三

B1 関係づけ

③は、「国語の授業や試験問題：参考書や問題集」と関係がある言葉です。読み進めると、試験問題や問題集を通して、他者の主張や気持ちを推測する勉強で「鍛えられたのが読解力である」とあります（——線④を含む一文）。※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問四

B1 具体化 比較

——線④は直前の「こんな勉強」と同じです。「こんな勉強」はその前の段落に書かれている「評論を読んで作者は何を言いたいのか：主人公がなぜそういう行動を取ったのかを推測」する勉強です。これと同意の表現はエです。アは勉強ではありませんし、イは読んで何をするか、という視点がぬけています。ウは本文中には示されていない内容です。

問五

B1 具体化 比較

読解力と「仕事」の関係について、ここまでの段落で具体例がさまざまあげられていました。二段落から四段落までは読解力がないと、仕事で扱う文書が理解できない、結果仕事そのものが達成できないことが書かれています。五段落から七段落までは、読解力がないために他者を理解できず、結果コミュニケーションのすれ違いを生むということが書かれています。ですから、ここでいう仕事力、というのは実際の仕事を遂行する力と他者を理解する（コミュニケーションをとる）力だのとらえられます。その二点をおさえている選択肢はイです。ウは文書を読んだり作成したりする力にしかふれられていません。エはコミュニケーションのことしかおさえられていません。さらにエは「自分の視点を捨て」という本文にはない表現であります。アも一見コミュニケーションと関係しそうな表現ですが本文中に「自分の都合や気持ちは抑え、相手の都合や気持ちを優先させる」ということは書かれていません。

問六

B2 理由 推論

——線⑥の直前に「そのため」とあることに注意しましょう。——線⑥の前に今問われている理由が書かれているということです。そこには、「読解力：実証されている」ところが、インターネットや：読書に浸って楽しむ時間を持たない人が増えている」という二文があります。答えとなるリード文を読むと、「読解力を向上させるには読書が効果的なのに」とあって、一文目の内容と一致しますから、二文目の内容を使つて答えにすればいいとわかります。理由を問われているのです

から、文末は「～から。」です。

※設問の指示や字数・文字指定に従っていないものは不正解とします。ただし、誤字脱字が一つの場合は減点1点、二つある場合は減点2点、それ以上は不正解とします。また解答の説明に過不足がある場合は減点2点とします。

問七 **A2 知識 比較**

「平易」とは「やさしくてわかりやすい」という意味です。反意語は「難解」です。

問八 **B1 置換 比較**

「これ」は——線⑧以降で例示されるものと同じです。例で出されていたのは「基礎的読解力」調査の問題の一部とその正答率です。

問九 **B1 関係づけ 比較**

⑨ 「キリスト教はヨーロッパ、南北アメリカ、オセアニアに（広がっている）」とありますから、答えはイです。
⑩ 「Alexは…女性の名Alexandraの愛称である」とあるので、答えはアです。

問十 **B1 関係づけ 比較**

文の並べ替えの問題では、指示語や接続語に注目しましょう。ここではアの「しかも」、「そこ」、ウの「それにもかかわらず」といった言葉です。ア「そこに答えは…書いてある」とあります。答えが書いてあったのは問題文中でしたから、イのあとにアがくることがわかります。その二文をウの「そ

れにもかかわらず」で受けて結論づける、という流れになっています。ですから、答えはイ→ア→ウです。

問十一 **B1 関係づけ**

「話を通じない人」というのは「読解力が乏しい」人です。読解力を磨くために効果的なのは、問六でもふれられていたように読書することです。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

③ **A2 知識 比較**

主語・述語の問題です。述語を見つけてから、主語となる「誰が」「何が」を考えるようにしましょう。

① 倒置文です。本来の語順に直して考えましょう。述語は「ものののだ」となり、何が「もの」なのかを考えると、「これは」が主語になると分かります。

② 「起きる」のは「私」ですが、この文では省略されています。
③ 「(信じて) くれなかった」のはみんなです。ですから主語は「だれも」になります。

④ 「ならんだ」のは「くだもの」です。

⑤ 「英雄」はだれなのかを考えましょう。「君」です。

④ **A2 知識 比較**

ことばの問題です。問われている言葉以外でもわからないことがあれば、辞書でその意味だけでなく例文までチェックしておきましょう。

① そつけない…思いやりや愛想がない

- ② もどかしい…思うようにならなくていらいる
- ③ あらまし…あらすじ
- ④ あぶはちとらず…二つのものを一度に手に入れようとして、どちらも手にはいらないことのたとえ
- ⑤ すずめのなみだ…非常に少ないことのたとえ